

令和 3 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

令和3年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- 1 教育・学習内容や補習等の取組を充実させ、普通科の4年制大学進学率と難関大学合格率の向上を図る。
- 2 教科学習のみならず、生活習慣上の基礎・基本を定着させ、生涯にわたって夢と志を持ち続け、心豊かで、生きがいのある人生を創造していく態度を培う。
- 3 命の尊厳に対する自覚を基に、防災教育・安全教育を強化し、危機管理能力の向上を図る。
- 4 学校評議員会や学校評価を通じた学校教育活動や運営状況の広報・発信に努め、保護者や地域社会との連携を深めることによって、開かれた学校づくりを推進する。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び継のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3.5	3.5
取組	その成果	課題と改善策	
長期休業日や放課後に補習を実施し、学力向上に日々努力している。(教務部)	夏期講習を各教科から生徒のレベルに応じた講座を開いてもらい、充実したプログラムを組むことができた。また、各教員の努力のもと、各所で放課後に進学に向けた補習などを開くことができた。	夏期講習については、生徒の応募が殺到する講座があり、教室の確保が難しくなっている。各講座を複数で開けるようお願いをしていきたい。	
校内における「公開授業」を実施し、教科内及び各教科間の交流や研修を推進することによって「わかりやすい授業」の展開を目指している。(教務部)	「公開授業週間」を実施しているほか、教員間で授業を見合っでそれぞれのスキルアップを図っている。	多くの教員が研修に励めるような環境づくりが必要。	
「ほげんだより」の発行により、健康的な日常生活が送れるように情報発信を行っている。(保健部)	できがざり発行できた。	業務量は定期的に大きく変わるが、テーマを持って深い内容としていきたい。	
1年生全員に図書見学を実施し、充実した図書館に興味を持たせるとともに、スタンプカードに取り組みさせ、読書習慣を育成する。「図書館だより」を定期的に発行し、新着図書・推薦本を紹介していくとともに、生徒が興味をもつ企画を実施し、図書館利用者、貸出者・貸出冊数の増加を図る。(図書部)	新入生の図書見学では、図書館に興味をもった、多くの生徒が本を借りて、画期的なスタートをきった。その後、スタンプカード・図書館だより・企画などに取り組みしたが、図書館利用者数は例年並みで、貸出冊数の増加には繋がらなかった。	読書を通じて読書習慣をつけるために、本の紹介・読書案内を充実させていく。定期的な「図書館だより」の発行。	
「青少年読書感想文コンクール」に応募する。(図書部)	これまでの1・2年生全員・3年生希望者の提出ではなく、今年の読書感想文は全学年希望者の提出にしたので、提出された作品(37作品)は少なかったが、積極的に努力して取り組んだ作品が多かった。その内、優秀作3作品を学校代表として阪神高校支部に応募し、2作品が「佳作」に受賞した。	希望者による作品提出ということで、作品のレベルを上げるとともに、読書するきっかけとして、また読書体験記録として、読書感想文に取り組む生徒を増やしていく。	
3学期に実施する「マラソン大会」に向けて、年明けからの体育の授業で持久走に取り組む。(体育科)	各個人に応じた目標設定を行い、目標に向けて努力させることを目指す。マラソン大会でその成果を発揮することにより、達成感や体力の向上をさせる。	コロナのため、実施できなかった。感染症対策を行なった上で、可能な限り今後も実施していきたい。	
音楽類型の授業ではできるだけ自ら考え、実践する授業を心がけている。芸術選択では、各自が積極的に課題に取り組めるような授業を心がけている。(芸術科)	1,2年次は、全員同じ進度で授業がすすむが、3年次のソルフェージュ、演奏法は各々のレベルにあわせて課題に取り組めた。楽典も全員の理解度を考慮しながらも、音大受験の生徒たちに対応した授業をすすめた。	1, 2年の授業が、週2時間ないし3時間で、理論、ソルフェージュ、音楽史、楽器の構造、音の成り立ち、音楽の基礎など、やることが多岐で、一つのこと集中すると、他が滞ってしまい、平進させるのが難しい。基礎の部分を何度か反復しないと身につかない。時間が限られる中、どう効率よく授業を進めるかが課題。	
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりで満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3.3	3.5
取組	その成果	課題と改善策	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基礎を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努めている。(ものづくり機械科)	例年10種目程度の資格試験を行っているが、本年度はコロナの影響でガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、機械製図検定、低圧電気講習を開催できなかった。	特にありません。	
阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めている。(ものづくり機械科)	今年度もコロナの影響でインターンシップを中止したが、就職希望者の面接指導2ヶ月間、社会人になるにあたって何が必要なのかを考えさせる指導期間になった。	特にありません。	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基礎を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努めている。(電気情報科)	情報機器の設置工事の資格として工事担当者試験の指導を行い、多くの合格を輩出した。その結果、情報通信エンジニアの優良団体表彰を今年度も受賞した。また、連続団体表彰を受けている実績から、求人につながる進路選択の幅を広げることができている。	工事担当者試験の最上級試験にも挑戦し、合格者の輩出に取り組んでいきたい。	
国家資格を取得することにより、ジュニアマイスター顕彰制度表彰対象者を50%以上、うちゴールド表彰対象者10名以上を目指す。工業技術顕彰制度表彰対象者を70%以上、うち金賞10名以上を目指す。国家資格第一・二種電気工事士・電気通信設備工事担当者第二級デジタル通信、第二級アナログ通信、第三種・第二級陸上・海上特殊無線技術士・航空特殊無線技術士について重点的に取り組む。加えてコンピュータネットワーク等の電気通信関係の実習を充実させていることを生かし、国家資格電気通信設備工事担当者試験に多くの生徒を合格させ、あわせて情報通信エンジニア資格も取得する。(電気情報科)	今年度の結果 ジュニアマイスター表彰対象者: 85% (達成) 特別表彰対象者: 11名 ゴールド対象者: 16名 (達成) 工業技術顕彰対象者: 92.5% (達成) 金賞対象者: 12名 (達成) 年度当初の目標を達成できた。	目標を達成できたため、課題は無し。	
阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めている。(電気情報科)	コロナウィルス感染防止対策のため未実施。	実施可能になれば、2年生全員参加させたい。	
アカデミックインターンシップを行い、学問の面白さにふれ、学ぶことの楽しさを感じさせ、学習意欲の向上を図っている。2年生40名を参加させる。(電気情報科)	コロナウィルス感染防止対策のため未実施。	実施可能になれば、2年生全員参加させたい。	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基礎を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努めている。(商業学科)	各生徒が自らの進路実現に向けて、検定取得や様々な行事に積極的に取り組んだ。特に資格取得においては、非常に良い結果を残した。	資格取得状況や、進路実績の面においては例年と変わらない結果を残しており、特に課題はない。	
高大連携授業を行い、学問の面白さにふれ、学ぶことの楽しさを感じさせ、学習意欲の向上を図っている。(商業学科)	コロナウィルス感染防止対策のため未実施。	状況に応じてではあるが、商業学科の全生徒が大学の授業に触れる機会を設けられるよう検討したい。	

阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めている。(商業学科)	コロナウイルス感染防止対策のため未実施。	状況に応じてはあるが、2年生を対象に全員参加で実施できるよう検討したい。
外部講師による講話を通じて、社会的自立に向けた態度・能力の育成を図る。(商業学科)	新型コロナウイルスの影響により、予定していたものすべてを実施することができなかったが、外部の方のかかわりを持つことで、コミュニケーション能力の向上が見られた。	状況に応じて、柔軟に予定を変更するなどして、できる限り多くの機会を設けるように考えたい。
文化的教養を高め、豊かな情操と想像力を育成する「芸術鑑賞会」を実施する。(総務部)	3月に1年生を対象に大阪四季劇場において、ミュージカル「オペラ座の怪人」を鑑賞予定。	
遅刻者に対する毎朝の別室指導や遅刻多数生徒の生活改善を促すため、「早朝登校指導」を行っている。(生徒指導部)	指導対象の生徒は減少しており、時間を守るという意識は大多数の生徒には浸透している。	繰り返し指導を受けている生徒に対しての家庭との連携の必要性及び難しさを感じています。
全校集会や外部より招請した講師による講話、及び全校生徒の意識を高めるための呼びかけプリントの配布などを通して、常に生徒の心への働きかけを行い、道徳性の育成に努める。(生徒指導部)	外部からの講師による講話や必要に応じて学年集会等も実施でき自らの生活を見直す機会を与えることができた。	一部道徳性が十分とは言えない行動がみられるが、粘り強く指導していきたい。
いじめアンケートを年3回行い、早期発見に努めている。いじめ対応チーム会議を定期的、かつ臨時に行い情報の共有を図り、対応を協議している。(生徒指導部)	いじめ対応チーム会議を必要に応じて行うことができ、情報の共有を図ることができた。	SNS上のいじめや時間が経過してからの訴えの対応などの難しさを痛感している。
生徒の自主的な進路選択を適切にサポートするとともに生徒それぞれの能力を伸ばさせ、将来の生活に活かせるよう指導している。(進路指導部)	自主的に進路について考えるような習慣がついてきている。	進路ガイダンスや面談の時期を考えて適切に実施していく。
各自の進路希望に合わせたガイダンス(説明会)や個人面談を実施し、進路に関する意識を高めている。(進路指導部)	ガイダンスや、個人面談によりある程度の進路に関する意識づけはできた。	進路実現までその意識を最後まで持ち続けて行くこと
外部講師の招聘や校外での研修会への参加を通じて、就職及び進学への意欲向上を図っている。(進路指導部)	外部講師の話により、より具体的に進路について考えることができた。	時期、及びその学年に適した外部講師を招聘していく。
「基礎学力テスト」及び「全国模試」を定期的実施、学習到達度を確認させるとともに進学希望者にきめ細かい指導を行っている。(進路指導部)	受験校の決定に役立っている。	学校行事との兼ね合いを考え、適切な時期に実施していく。
生徒の基礎的な人権教育の理解に促進するため、本校の人権教育方針に基づいて、人権教育読書・人権教育講座等を実施し、人権教育通信を発行する。(人権教育部)	本校の人権教育方針に基づいて、3年は人権教育読書、1,2年は人権教育講座等を実施し、概ね良好だった。人権教育通信は、人権について、いじめを防止する心構え、奨学金などについて、発行した。	人権教育は永遠課題が多いため、時間が必要だが、これからも色々な意見や校内の状況を考慮しながら、慎重に進めていきたい。

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活気に満ちた学校づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.6	3.6

取組	その成果	課題と改善策
夏季休業中(特に7月下旬)に「三者面談」を実施、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、保護者との連携を深めている。(第1学年)	7月下旬より全クラス「三者面談」を実施いたしました。入学してからの学校生活の様子、今後の目標や進路について保護者との情報交換、連携を深めることができた。	コロナ禍において、リモートによる面談を希望される家庭への対応を考えていく必要がある。
夏季休業中(特に7月下旬)に「三者面談」を実施、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、保護者との連携を深めている。(第2学年)	各クラス、全生徒を対象に三者面談を実施し、保護者との連携を深めることができた。	コロナ禍において、リモートによる面談を希望される家庭への対応を考えていく必要がある。
夏季休業中(特に7月下旬)に「三者面談」を実施、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、保護者との連携を深めている。(第3学年)	夏季休業中に全クラス「三者面談」を実施し、生徒の進路に関して保護者との連携を深めることができた。	コロナ禍において、リモートによる面談を希望される家庭への対応を考えていく必要がある。
中学生及びその保護者対象に「学校説明会」及び音楽類型体験入学を(年間計4回)開催し、本校の教育方針(内容)や施設見学を通して、本校の魅力をアピールしている。また、中学校に出席の出張説明会にも積極的に参加していく。(総務部)	新型コロナウイルスの影響で人数制限を行い、1日の実施回数を増やすことにより、昨年より多くの中学生や保護者に参加してもらい本校を知ってもらう良い機会となった。	延期や中止の連絡を周知徹底する。生徒目線から本校の魅力を伝える。
ホームページの更新を頻繁に行い、本校を知ってもらうための情報発信に努める。(総務部)	ホームページの更新をこまめに行い、校内の様子や本校に関する最新の情報を掲載するなどして、本校を幅広く知ってもらうための情報発信をしている。	ネットワークが新しくなったことにより、ホームページ作成用のパソコンが必要になった。(今は個人用のパソコンで対応している。)
生徒指導の充実を図るため、「生徒指導委員会」や「職員会議」において教師間の意思疎通を適切に行うなかで、現在の生徒指導の問題点や現状に合致した規定の改定の協議を進めている。(生徒指導部)	規定の改定については、問題点などを整理し対応についての協議を進めることができた。	生徒や保護者、地域の意見などをどう取り入れていくかを考えていく必要がある。
「保護者会」を開催し、おもに進路指導を中心に保護者との連携を図っている。(進路指導部)	コロナ禍の中ではあるが、今年は3学年とも無事開催でき、進路として伝えるべきことは伝えられた。	特になし
「学校保健委員会」を開催し、保護者や学校医も交え、家庭や地域との連携した学校保健活動を展開している。(保健部)	感染状況を踏まえて、可能な限り開催していく方向。	開催されなくても報告内容をまとめた冊子を配布する。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3.5

取組	その成果	課題と改善策
実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努めている。(ものづくり機械科)	本年度も「大きなケガ」なく実習を終えることが出来た。使用機械の騒音下で、マスクを着用しての説明が生徒にうまく伝わっているか心配な点があった。	身振り手振りの「ジェスチャー」を取り入れ工夫していきたい。
実習前は全体ミーティングを実施し、服装の確認と体調観察を行う。また、実習の安全意識向上を図る。(電気情報科)	実習前の全体ミーティングでは開始時間前に整列が完了し、落ち着いた状態で実施できた。	実習の合間にある休憩時間使い方を充実させるようにしていきたい。
「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災意識のさらなる向上を目指している。(総務部)	救命講習会を管理職・学年・消防署と実施方法を検討し、感染対策を行ったうえで実施することになった。消防署に参加していただき避難訓練を実施した。今年は校内の防火シャッターを動作させて実施した。	救命講習会に参加する学年以外の教諭の参加を増やすことが課題である。防災訓練においては、いろいろな災害を想定して実施するように努めていく必要がある。
安全な学校づくりのために、学校施設の安全点検を各学期に行い、危険箇所の早期発見に努めている。(総務部)	4月・9月・1月に校内の施設・設備の安全点検を行い、危険箇所の早期発見と改善に努めた。	点検箇所以外を点検する必要がある。(駐輪場、駐車場等) 衛生面から見た場合、掃除区域に入っていない箇所(トイレ等)がある。安全衛生委員会の取り組みを積極的に変えていく。
校内外の敷所において、生徒指導部の教員を中心に「自転車安全運転指導」を行っている。(生徒指導部)	登校時間帯においては、継続して取りくめており、安全運転への意識は向上している。	下校時や学校周辺以外での意識の向上をいかに図っていくかが、今後の課題である
「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災意識のさらなる向上を目指している。(保健部)	生徒が救命措置を実技でできるようになった。	感染症対策を行なった上で、可能な限り今後も実施していきたい。

教育目標 ①広い視野と創造性をもつこころ豊かな人間を育てる。 ②高い志をもち、主体的に生きる人間を育てる。 ③幅広い知識と教養を身につけた人間を育てる。 (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3.5
取組	その成果	課題と改善策
各種検定取得に取り組むことで、ビジネスに関する幅広い知識・技術を身に付ける。卒業後の進路決定に役立つよう、より高いレベルの検定資格の取得を目指す。(商業学科)	今年度も全商検定9冠取得者が1名出しており、ほかにも多くの生徒が多数1級取得することができた。この結果から大学への進学や就職時にも高い評価を得ている。	上級生による成果(進路実績)を下級生に知らせることで、検定取得へのさらなる意欲向上を目指す。
「教育課程編成委員会」において、現行の教育課程や教科指導の具体的な内容を検討し、教育目標の達成に取り組む。また、令和4度から予定されている「学習指導要領」の改訂及び昨年度から実施されている「大学共通テスト」の導入に関して、研修・協議を推進する。(教務部)	教育課程編成委員会において、文部科学省からの通知を共有し、それぞれの教科で課題を話し合ってもらっている。	それぞれの教科での出た課題を全体で共有できているとはいえない。今後、教科会の議事録を共有できるようなシステムの構築が必要。

研究テーマ ①生徒理解を深めるとともに、個々の教育的ニーズに応じた学習指導について職員の共通理解を図る。 ②地域と連携し、身に付けた知識・技能を活用して課題を解決する能力を育み、主体的に学ぶ態度の育成を図る。 (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.8	3.8
取組	その成果	課題と改善策
①検定前に実施する補習時には、担当授業や学年の枠を越え、商業学科全ての教員がその指導に当たり、情報交換を行うことで、生徒の学習理解度等の情報共有を行う。(商業学科) ②3年生課題研究では、商工会議所や、地元企業と提携し、地域の企業の経営課題改善に取り組む。3年間で身に付けた商業の知識技術を活用でき、地域にも貢献することができる。また、夏休みには商工会青年部が企画するイベントに参加し、生徒が経営者と会話・活動することで、商業の学びに対する興味関心がより深くなり、自ら学ぶ態度の育成に繋がる。(商業学科)	①全教員が積極的かつ丁寧な指導を行うことができ、検定取得にもよい成果を出すことができた。 ②商工会議所、地元企業にも本校の取り組みが徐々に浸透し、次年度以降の継続を依頼されるケースが増えている。また、生徒もこれまでの学習活動と違う学びや経験をすることで、新たな発見や気づきがあり、意欲の向上が見受けられた。	①教員間の情報共有をより深め、生徒の学力向上、資格取得に向け効率よく指導できる形を継続して模索する。 ②新カリにおける新たな教科との関連を考えつつ、継続的な学習や新たな取り組みが行えるよう、外部機関との情報交換を積極的に行う。
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し)「研修会」を企画する。(教務部)	GoogleClassroomを活用した課題配信やメッセージ配信の仕方などの研修会を開いたり、活用の方向性を提示したり、教員が活用しやすいように努力した。	全教員が活用しているという状況ではないので、活用方法の事例の共有をしていく。
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し)「研修会」を企画する。(生徒指導部)	規定の改定については、問題点などを整理し対応についての協議を進めることができた。	生徒や保護者、地域の意見などをどう取り入れていくかを考えていく必要がある。
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し)「研修会」を企画する。(保健部)	カウンセリングマインド研修会・特別支援教育研修会を実施することができた。特に初めて特別支援教育の研修会を全体で持つことが出来て良い機会となった。	今後も研修会を継続していきたい。内容も実践に則したものとなるように充実させたい。
(コロナウィルスのため、状況が許せば、)人権教育を更なるものにするため、教職員向けの人権教育研修会を実施する。(人権教育部)	コロナウィルス感染防止対策のため未実施。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>難関大学などの希望者が増え、生徒の進路保障に繋がる成果が見られます。特に夏期講習についての応募者は評価に値する。図書館の活用については、構造的なものではなく「読書嫌い、読書離れ」が根底にあると思われます。例えばビジュアルを取り入れる「YOUTUBEの投影」や、1.5倍速で本を読んでもくれる「速読ツールソフト」等を取り入れる等、まず図書館に足を運ばせる仕組みを考えてみてはどうでしょう。教員の資質向上も必須でしょう。各教科でレベルアップを図るための取り組みなど考えてはいいですか。</p>	3.4
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>高校生の3年間は人生における「人間形成」を確立する上での最も重要な時期であると考えます。この時期に集団生活やスポーツ等により、組織的な行動、コミュニケーション能力、お互いを思いやり尊重しあう心を養うことが最も重要と考えます。これを怠ると「いじめ」や「人権侵害」につながるようになると思います。時間をかけて取り組まれていることは大変評価できると思います。引き続き粘り強く推進されることを望みます。SNSによる思いがけないトラブルが社会問題となっています。皆さん知っているようで気づいていない落とし穴があるようです。教員自身が、更に深く知ることにより事故を防ぐことができます。「そんなん知ってる」ではなく「ここが危ない」段階まで研修して欲しいです。その深みが必ず生徒にも反映すると思いますがいかかでしょうか。心の教育ですが、人権も大切ですが、まずは人としての生き方でしょうね。また、そういう面の研修も必要だと考えます。</p>	3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>全学年の保護者懇談会は、保護者との意思疎通を図るためにも続けてください。担任との信頼関係を築くことは教育活動に欠かせない教育の基本、ただお会いするだけでなく良き相談相手になれるよう頑張ってください。また、生徒会役員やクラブ活動の部員などを通じて生徒間の現状を知ることも必要でしょうね。もうすでに、なされていると思いますが外部から見ると感じられないのが正直な印象です。地域との交流「自治会」や「社協」との意見交換等も開催されてはどうでしょうか。</p>	3.5
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>実習前の安全教育は十分に行われていると思います。「救命講習会」「避難訓練」「自転車安全運転指導」については、おおむねよく取り組まれていると思いますが、「消防署」のみならず外部の講師（「警察署」「市役所」等）を招へいして実施されてはどうでしょうか。防災の学校組織を明確に示し、年に一度すべての役割を機能させてみてはどうでしょうか？私の時も年に2回やればいんだと行事をこなす感覚だった反省です。本当に起こった場合に、やはり備えがないと取り返しのつかないことになりかねません。</p>	3.8
<p>■教育目標</p> <p>3つの目標については異論なく、もったもなものであると思いますが、実際に実施できるかどうかが課題であると思います。自ら考え、工夫し、実施する判断「PDSC」を養うことが重要で、3年間では難しいかも知れませんが、与えられた勉強だけでなく実践を取り入れたワークも必要かと思えます。また、全体的評価が職業学科が中心な感じが見受けられ、進学指導、部活動の状況が少し薄いのではないのでしょうか。学校評価の中で「その成果」も数値化し達成度を評価するのはどうでしょうか？本来なら教科別、校務分掌別にとかやればいいのですが、毎日の業務が忙しいので難しいと思います。評議員の立場から申し上げるとグラフなどを利用し可視化できるとありがたいです。</p>	3.5
<p>■研究テーマ</p> <p>専門学科は研究テーマを掲げやすいですね。これを利用して普通科にも参加させ、学校全体が取り組んでいる姿勢を見せることができるのではないのでしょうか。開校した大きなテーマがハイブリッドスクールでした。来年度からの学科編成が変わるきっかけとしてこの10年の検証する意味でもいかかでしょうか。教員のスキルアップにもつながると思います。</p>	3.7
■	
評価項目（A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善）	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B